

【高等学校用】

令和3年度学校評価 結果

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀県立佐賀東高等学校
1 前年度 評価結果の概要	「生徒と教職員が元気で明るい学校作りを目指して」という重点目標を掲げ、計画的に教育活動に取り組んだ。新型コロナの影響により、様々な活動が制限されることもあったが、相互尊重の醸成、自己肯定感・有用感を育む指導を続けた結果、一定の評価を得た。「安全に関する資質・能力の育成」については、特に登下校時の交通事故防止対策として、交通ルール遵守とマナーアップを呼びかけ、交通事故ゼロを目指し取り組んでいく。また、新学習指導要領に適応した学習指導のあり方について、研修を重ね継続した取り組みを実践していく。
2 学校教育目標	校訓「使命に生きる」「自主自律を尊ぶ」「明朗清新を喜ぶ」の精神のもと、生きて働く知識・技能の習得や未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成、学びに向かう力や人間性の涵養を通して未知の作り手に求められる資質・能力の育成を図る。
3 本年度の重点目標	唯一無二の誇り高き佐賀東高校の教育実践のために ア「時を守り、場を清め、礼を正す」人材育成 イ「この学校でよかった」と思える学校づくり ウ「安心・安全」な、また「部活動の競技力向上」に向けた環境づくり エ「保護者、地域社会」との連携 オ「不易と流行」を意識した学校づくり

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○生徒一人一人に明確な希望進路を持たせ、それぞれの進路実現に向けた取り組み	○進路希望調査における「未定」率が3年生0%、2年生15%未満、1年生20%未満 ○3年生の希望進路実現率90%以上	・各種ガイダンス等を通じて、生徒一人一人の自己理解を深めさせる。 ・模擬試験等を活用して自己の現状と目標との距離を意識させる。	B	・9月の進路希望調査で「未定」率が2年生10%、1年生7%であった。コロナの影響でガイダンスや大学訪問が行えなかった影響と思われる。大学訪問は12月実施で調整中。 ・3年生はそれぞれの進路実現に向けて一人一人が意欲的に取り組んでいる。	A	・3年生については、ほとんどの生徒が自ら希望する進路先を決定し、目標を実現している。未決定の数名も、現在、頑張って受験に取り組んでいる。1、2年生もそれぞれの学年での活動を通して、自分の興味・関心の方向性を自覚しつつある。	A	・生徒一人ひとりに、丁寧に対応してもらっている。 ・進路指導では、熱心に面接の仕方や作文など指導をしてもらっている。	進路指導部
	○基礎学力の定着	○各教科、年間で2回以上公開授業を実施し、授業改善に努める。	・「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った指導法を研究し、実践する。	A	・「生徒の学習意欲を高める授業」という研究テーマに沿って、1学期中に各教科1回ずつ授業公開を実施。 ・授業研究会で良かった点を評価し、改善点についても話し合った。 ・2学期は、11月に授業公開を実施予定。	A	・1学期、2学期に1回ずつ、合計を教科2回、研究テーマに沿った授業を公開し、教科別に研究会を実施した。新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」とはどのようなものか、どのように示していけばよいのかを考える契機とすることができた。生徒が主体的に参加する授業展開を意識するようになった。	A	・アンケートでは、基礎学力の定着について90%以上の生徒が肯定的な評価をしている。 ・「主体的・対話的で深い学び」について、さらに主体的に参加できる環境づくりを構築してほしい。	教務部
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○特別指導件数5件以内を目標とする。	・指導カードを通し心の乱れの早期感知を行い必要な心の教育を早期に行う。 ・「いいねカード」の内容を生徒へ伝え他者への思いやりのある学校雰囲気形成する	B	・R3.10月末時点で特別指導2件(SNS不適切使用)であり目標達成できる生活状況である。 ・指導カード37枚(主は携帯使用)に対し担任・学年主任・生徒指導係による指導により生徒の行動修正に繋がりに再指導は殆どない。	A	・R4.2月末現在で特別指導3件(SNS不適切使用3件)であり目標を達成できている。 ・指導カード累計45枚と11月からのカード発行は8枚と少なく、また、再指導が必要な生徒も無く指導後に改善が出来ている。	A	・指導カードの活用など、工夫がみられる。 ・様々な事象が発生すると思うが、適切な指導・対応をお願いしたい。	生徒指導部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○組織的な対応によって、いじめの早期発見、早期対応、被害の最小化および再発防止に努め、いじめ重大事案件数ゼロを目指す。	・面談週間を活用し、生徒個人や生徒間の情報収集を図る。ホームルームや生徒会活動、教科指導を通じ、好ましい人間関係等いじめ問題についての適切な指導を行う。 ・いじめに関するアンケートを年2回実施し、対応を協議・実行する。事案発生時は随時委員会を開催し、迅速に対応し解決を図る。	A	・4月の面談週間で、担任と生徒一対一の個人面談を実施し、生徒全員に目を配る機会を持つことができた。 ・いじめに関するアンケートは1学期末の7月に実施し、その中で7件いじめに関する回答があり、7件すべてを認知した。該当の生徒には担任や学年団で迅速に対応していただき、早期解決を図ることができた。今後もいじめを未然に防ぐ取り組みを行ってきたい	B	・面談週間や日常の学校生活において、気になる生徒には声をかけ面談を行うなど、生徒の情報収集を、職員間で情報共有を図ることができた。 ・いじめに関するアンケートは、年に2回実施し合わせて13件の事案について認知および認知を行った。該当生徒の担任や学年団の迅速な対応により、早期解決を図ることができた。	A	・「何かあったときにすぐに対応してもらっている」、「生徒が先生に寄り添っている」といったアンケートの回答がある。 ・アンケートでは10%の生徒があまり当てはまらないと答えている。注意が必要。 ・様々な事象が発生すると思うが、適切な指導・対応をお願いしたい。	保健部(教育相談)
●健康・体づくり	○望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○「健康に食事は大切である」と考える生徒95%以上、朝食の喫食率を90%以上を目標とする。	・家庭基礎やフードデザイン、保健の授業で「食事と健康」について考えさせる。 ・食事アンケートの実施 ・保健日より発行	B	・家庭基礎やフードデザイン、保健の授業で「食事と健康」について考えさせた。例えば、食育デジタルコンテンツを利用して1日の生活を食事で変えることをデータとして確認させた。食事アンケートを4月に実施した。今後2回目を実施予定。	A	・2年生を対象にした食育アンケートでは目標を上回り、男子98%、女子99%になりました。1年生には食育デジタルコンテンツを利用して感想など書かせたら多くの生徒が自分の食生活を振り返り朝食の大切さを感じ取っていました。	A	・引き続き「食育・食事と健康」について指導してもらい、数値目標を超えるようにお願いしたい。 ・食育アンケートでは評価が高いが、学校評価アンケートではそうでもない。乖離がみられる。質問の意味と取り違えているのかもしれない。	保健部
	○安全に関する資質・能力の育成	○生徒の交通事故ゼロを達成する。	・自転車点検を行い、車両運転者としての安全意識を高めさせる。 ・交通講話を行い危険予知能力を高め交通ルールを遵守する資質を育成する。	A	・交通事故は6件と0は達成できない状況だが昨年度同時期比-10件と大きく減少している。アンケートと交通調査を使った交通ルール規範意識向上のLHRの成果と分析している。 ・交通講話を11月実施予定。	A	・交通事故は累計11件と0は達成できない状況だが昨年度同時期比-12件と大きく減少している。アンケートと交通調査を使った交通ルール規範意識向上のLHRと11月の交通講話の成果が継続していると分析している。	A	・人命にかかわることであり、高校時代だけでなく、今後の社会生活においても重要な課題なので、今後も徹底した指導をお願いしたい。 ・大崎の交差点は危険である。生徒への指導をお願いしたい。	生徒指導部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。また、職員朝礼は週3回(月水金)とし、会議等は終了時間を設定するなど業務削減(縮減)を実践する。6ヶ月平均の45h超過者を15人以下にする。	・定時退勤日(月)推進日(金)の設定 ・学校閉庁日の設定 ・部活動休養日の積極的な推進 ・積極的な業務削減(縮減)の提示	B	・学校閉庁日を設定し、定時退勤日推進に関しては意識が高まって、多くの職員が実践できている。部活動休養日は新型コロナの影響もあって、昨年と同様に休養日が増えた。それに伴って時間外勤務の時間も昨年比減少している。業務の削減に関してはできるところから削減・縮小していく。	B	・新型コロナの影響で、効率よく業務を進めることや、定時退勤を意識することにより、時間外勤務の縮減に繋がっていると感じている。また、学校行事の見直しや活動の自粛等余剰なくなったが、今までと変わらない効果を生み出すとする工夫改善の機運は高まっている。また、今までになかった業務も増えているので、事務的作業部分で、思いきった削減・縮小案を示す必要があると考えられる。	B	・どの職場においても、働き方改革や業務の効率化は難しいところがあるが、積極的に学校全体で取り組みをお願いしたい。 ・部活動は社会体育にすればいいというが、佐賀ではそう簡単にはできない。	管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○学校情報の発信、保護者・地域社会との連携	○保護者や外部への積極的な情報発信 ○地域への貢献活動(ボランティア)	○学校行事や生徒会活動、部活動での活躍や魅力を学校便り、学校HPで発信する。保護者との連携を密にし、スクールニュース等で迅速な対応を行う。HPを見たことがある保護者の割合を80%以上にする。 ○本校所在地である北川副校区や佐賀県・佐賀市のイベント情報を収集し、積極的にボランティア活動に参加する。ボランティアへの参加率を90%以上とする。	・リアルタイムで報告できるように学校HPを随時更新し、写真やわかりやすいデータを掲載する。 ・佐賀県、佐賀市のイベントや地域行事の最新情報を収集するため、地域に向き、また、ネットワークを駆使する。	A	・滞っていたHPコンテンツを更新した。また、定期的に行事予定を更新しており、閲覧数は700を超えている。 ・重要な連絡や緊急性のある連絡にはスクールニュースを活用している。 ・北川副町の河川清掃ボランティアに生徒会・部活動・職員含め60~70名参加した。	A	・HPコンテンツの更新を進めた。「中学生の皆さんへ」は1,700以上、「進路状況」は、3,000を超える閲覧数があった。 ・新型コロナウイルス関連の情報提供や修学旅行の現状報告に、スクールニュースを積極的に活用した。 ・ボランティア活動を活性化するため、1学年による徐福ロードの清掃活動を3月に行う予定である。	B	・後援会、部活動振興会役員などから意見を聴取するなどHPの更新時のヒントとなればと思う。 ・地域貢献を推進され、積極的に交流し、友好関係にあると聞いている。特に北川副校区の小・中学校はコミュニティ・スクール(学校運営協議会)があり、その連携も検討いただければと思う。 ・HPの更新がなされていないページがまだある。 ・保護者はHPまでなかなか見ない。メールでどんどん出していくのがいいのではないかと。	主幹教諭

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <p>・学習用パソコンや電子黒板を利用し、アクティブラーニング(主体的・対話的で深い学び)を実践しながら、生徒自らが学ぶ意欲を高め、学力向上と人間力アップの取組みを進めている。進路指導部や各学年で、授業を中心として、その他の教育活動(特課や教育講演会、大学訪問)等の取組みによって、個人差はあるが、確かな学力を身に付けてきている。そのことが、生徒の進路目標の達成・実現に繋がってきているように感じている。 ・学校評価アンケートにおいては、各項目において概ね高い評価をいただいている。また、地域行事に関しては、生徒会(運動部・文化部問わず)が主体的かつ積極的にボランティアとして参加し、貢献している。 ・働き方改革の推進として、長時間労働の縮減や部活動指導のあり方、学校行事や教職員の事務的作業の効率化、また、それらの検討・見直しに取り組んだが、期待通りの成果は得られていない。次年度の課題でもある。 ・「唯一無二の学校づくり」のため、明確な目標(スクールミッション・スクールビジョン)を設定し、学校運営と教育活動、地域との連携を模索しながら推進していく。</p>
----------------	---